

河川砂防技術研究開発公募 砂防技術分野
平成 31 年度採択テーマ
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合 評価
降雨の既往最大値超過を基軸とした革新的な警戒 避難情報提供技術の開発 (研究期間：H31 年度～R3 年度)	京都大学 教授 小杉賢一郎	A
<p><研究概要></p> <p>本研究では、「雨量指標を固定せず様々な指標の組合せで種々のスネーク曲線を描くことで、土砂災害の危険性を多角的に評価する」ならびに「過去の全ての雨量データを用いてスネーク曲線を描き、その最大値を結んだ線を CL に設定する」という 2 つのアイデアに基づき、土砂災害発生危険度を評価するための新たな指標である未経験降雨指数 T_p と新たな土砂災害発生危険基準値 T_c を提案し、過去の災害事例の解析により、それらの有用性と活用方法について検討を行った。</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>本研究では、全国一律のパラメータで評価される土壌雨量指数を用いず、直感的に分かりやすい未経験降雨指数 T_p と土砂災害発生危険基準値 T_c を用いた評価法を提案している。とくに未経験降雨指数 T_p については、過去の土砂災害事例を対象とした検証から有効性を提示しており、警戒・避難基準の策定手法の進展が期待できる。</p> <p>今後は、土砂災害発生危険基準値 T_c の検討を深めるために、地震や大雨を受けた地域において地盤強度が低下するような素因の状況変化をどう捉えるのか検討を進めて頂きたい。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い